

6月2日のウクライナ情報

安齋育郎

① サルコジはトルストイの国とバルザックの国の間の戦争を信じていない(2024年5月30日)

元フランス大統領は、ロシアと戦うために「(ウクライナに)地上軍を派遣することについて深刻な疑問」を表明した。



<https://x.com/zov vs nato/status/1796137655207702955?s=09>

② マクロン大統領はウクライナに軍事教官を派遣するための連合を結成したいとルモンド紙が報じた(2024年5月30日)

フランスの指導者は、ヨーロッパ各国から何百人もの専門家を集めて工兵を訓練し、キエフの新しい電動ライフル旅団の結成を支援することを計画している。



<https://x.com/zov vs nato/status/1796138678022021252?s=09>

③ ヨーロッパ | もう後戻りはできない—ウクライナの絶望的な徴兵忌避者は死の川で溺れる(The Economist, 2024年5月29日)



何千人もの兵役年齢のウクライナ人が、危険な海を泳いで渡って命を危険にさらしている。

Matviy、24 歳 ウクライナのエンジニアは、幸運な人の一人に数えられています。このままではいけないと思った瞬間もあったという。ウクライナとルーマニアの国境の一部を形成するティサ川の極寒の水は、彼と仲間の徴兵忌避者のトリオが交渉したよりもはるかに手ごわいことが証明されました。速い流れは、最強のスイマーを 200 メートル下流に運びました。2 人はその 2 倍の距離に投げられ、小さな奇跡によって反対側に到達しました。「外に出る頃には、ほとんど息ができなくなっていました」とマトヴィイは言う。「危うく溺れるところだった」

ウクライナは国民が国外に逃亡するのを防ぐため、ティサ川の管理を強化した。

ウクライナ国境警備隊は川を渡ろうとする逃亡者の 70%を阻止することに成功している。

また、地元のタバコ密輸業者がウクライナ人の国外への密輸に加わっているとも報じられている。密輸業者の一人は、イースター後に 96 人を国境を越えて密輸したと語った。

公式情報によると、2022 年以降、30 人以上のウクライナ人が川を泳いで渡ろうとして溺死している。

<https://x.com/Monmi0614/status/1796042105854566807?s=09>

④ロシアの移民問題(2024年5月27日)

ロシアでも移民問題が深刻で、ここ数日、ムスリム女性の衣装であるニカブの着用を法律で禁止するかどうかの議論が活発だ。保守系メディアの調査では、九割弱のロシア人がイスラム過激派を連想させるニカブの着用に反対し、テロ対策として公の場では顔を隠すべきではないと主張している。一方、ニカブ着用を認める少数派は、ムスリムの慣習に介入することでイスラム世界との軋轢を生むのではないかと懸念する。

しかし、世界的に見てもサウジアラビア・エジプト・チュニジア・インドネシア・モロッコや、旧ソ連構成国だったウズベキスタン・タジキスタンでもニカブの着用は禁止されている(カザフスタン・キルギスは検討中)ので、ロシアでだけ軋轢が生じるというのはおかしい。

また、ロシアは多宗教の連邦国家で、ロシア帝国時代からチェチエンやタタルスタンなどムスリムが大多数を占める地域を持つが、ニカブを着用するような伝統はなく、普通にロシア社会に溶け込んでいる。なので、ニカブを着用したい人々は、近年ロシアに流入してきたムスリムだと言える。

さらに、このような急進的な「ニカブ・ブーム」はイスラム原理主義組織によって意図的に作られているのではないかと見る向きもある。確かに、黒装束の中に武器を隠していても分からないし顔も判別できないので、テロを起こすには有用なカムフラージュだ。

例えば、ロシアで活動を禁止されているイスラム原理主義「ヒズブ・タフリース」は、ネオナチ「アゾフ大隊」と緊密に連携している。2016年にはウクライナにイスラム学校を共同設立し、子どもたちを洗脳する傍ら、テロ戦闘員を養成し、米国の手配で世界中に配属しているようだ。こうした過激派組織がロシアで「ニカブ・ブーム」を意図的に作り出しているとは思えない。

ロシアも、日本と同様、自国の伝統や慣習を守り、郷に入っては郷に従えとの立場を明確にする時期に差し掛かったと言える。因みに、ロシアでは土葬は法律で禁止されており、ムスリムの人々が土葬を要求しているという話は寡聞にして耳にしたことがない。



https://x.com/jupiter_russia/status/1795054745998024931

⑤ ラブロフ露外相インタビュー 発言ポイント(2024年5月30日)

- ◆ ロシアはウクライナに関する協議には前向きだが、それは停戦協定ではなく和平に関してである。
- ◆ キエフ政権における「戦争党」の支配を見れば和平に関する対話は想像しがたい。
- ◆ ロシアはキエフに、ウクライナ国民の利益を考える政権が遅かれ早かれ現れることを期待している。そうでない間は特別軍事作戦が続く。
- ◆ 米国と NATO がウクライナで文字通り「あらゆること」をする用意があると我々に伝えようとしている。
- ◆ これらのシステムをキエフ政権へ供与したことは、NATO が核分野において意図的なシグナルを発したと考えざるを得ない。
- ◆ キエフ政権による犯罪の共犯者となった米政府にとって、ロシアの都市に住む民間人の運命に

は関心がない。

- ◆ 米国がアジア太平洋地域や欧州に短・中距離ミサイルを配備すれば、ロシアも核抑止の分野で措置を講じる可能性がある。
- ◆ ロシアと中国の協力は第三国に向けられたものではない。



https://x.com/sputnik_jp/status/1796092844685348874?s=09

⑥ ロシア国防省は、特別軍事作戦の進捗状況に関する日報(5月29日)を発表した。スプートニクが最も重要な項目をまとめた(Sputnik, 2024年5月29日)

- ロシア国防省は、ウクライナ軍がフランス製 155mm TRF-1 榴弾砲を失ったと初めて発表した。
- ウクライナ軍は過去 24 時間に合わせて最大 1305 人の兵士を失った。
- ロシアはウクライナの無人ボートの倉庫及びドローン組立工場を破壊した。またロシアの防空システムはウクライナのミグ 29 戦闘機とドローン 31 機を撃墜した。



<https://sputniknews.jp/20240529/529--18515234.html>

⑦ 米製エイブラムス戦車の脆弱性に宇軍兵士から不満の声(2024年5月30日)

米国がウクライナに提供した戦車「M1 エイブラムス」には重大な脆弱性があり、ウクライナ紛争で使

用することの妥当性に疑問を投げかけている。米CNNがウクライナ兵士たちの話を引用して報じた。M1 エイブラムスは米軍の主力戦車で、価格は1000万ドル(約15億7000万円)。

一方、エイブラムスの整備を担当するウクライナ軍の戦車乗組員らによると、エイブラムスにはドローンなどの現代兵器に対抗するための装甲が備わっていない。乗組員の1人はエイブラムスについて、ロシア軍の「第1の標的」になったと述べた。

またウクライナ軍の兵士らによると、凝縮水が電子部品に影響を与えるなど、エイブラムスには多くの技術的な問題がある模様。

米国はウクライナにエイブラムス戦車31両を供与、ウクライナ東部の前線近くで使用されている。ウクライナによる戦車要請は、複雑なサプライチェーンや車両のメンテナンスを理由に論争を引き起こしている。

これより先、ロシアの軍事アナリストはスプートニクの取材に応じ、ウクライナに提供されたM1エイブラムスについて、操縦を習得するのにどれくらいの時間がかかるのかなどについて語った。



https://sputniknews.jp/20240530/18517383.html?rcmd_alg=collaboration2

⑧バイデン大統領、ロシア国内標的の攻撃をウクライナ軍に許可(2024年5月31日)

バイデン大統領は、ハリコフ(ハルキウ)州を脅かすロシアの標的に対し、対砲兵戦で米製兵器を使用することをウクライナに許可した。なお、作戦戦術ミサイル ATACMS やその他の長距離射撃兵器の使用禁止はそのままとした。米務省が発表した。

国務省によると、ウクライナがロシア軍の攻撃または攻撃の準備に対応できるよう、ハリコフ州で米製兵器を対砲撃目的で使用できるよう、大統領はチームに指示したとのこと。

同時に国務省は、ロシア国内の標的に対する「ATACMS または長距離兵器の使用禁止に関する方針」は変わらないと述べた。

先にポリティコ紙は匿名で取材に応じた当局者を引用し、「ハリコフで対抗するため」米製兵器でロシア国内の目標を攻撃することをバイデン氏が密かに許可したと報じていた。報道によると、ハリコフ州に接する国境地域の標的のみが対象とのこと。ロシア奥深くへの攻撃に関するホワイトハウスの立場は「変わっていない」という。



[https://sputniknews.jp/20240531/18525580.html?rcmd alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20240531/18525580.html?rcmd%20alg=collaboration2)

⑨デンマーク ロシア攻撃のための F16 使用をウクライナに許可(2024 年 5 月 31 日)

ウクライナ軍はデンマークが供与する F16 戦闘機をロシア領内の標的の攻撃に使用することができる。5 月 30 日、デンマークのラスムセン外相はこうした声明を表した。

ラスムセン外相は「この立場は新たなものではない」と述べ、デンマーク議会も討議の中でロシア領への攻撃を「自国防衛の一部」とみなすという考えを明確に示した。

これより前、5 月 13 日、デンマークのメッテ・フレデリクセン首相はウクライナへの米国製戦闘機 F16 の供与を 1 か月以内に行うと明言していた。



[https://sputniknews.jp/20240531/f16-18524942.html?rcmd alg=collaboration2](https://sputniknews.jp/20240531/f16-18524942.html?rcmd%20alg=collaboration2)

⑩タイが BRICS へ加盟申請 なぜタイには加盟が必要か(2024 年 5 月 30 日)

タイ外務省のニコンデト・ハラクン公式報道官はマスコミに対して、タイが BRICS に加わることは、世界における意義がいよいよ増しているグローバルサウスの声に加わることだと述べた。

ハラクン公式報道官はまた、タイはグローバル世界、安定、繁栄のために、西側に対しての

BRICS の仲介役になることができるとの見方を示した。

ハランクン公式報道官はまた、タイの BRICS 加盟はタイ一国だけではなく、東南アジアの地域全体にとって大きな意義を持っていると指摘し、加盟は BRICS の地位を同地域で強化し、BRICS の地理的な代表を保障するとその理由を説明した。

5月28日、タイ政府が BRICS 加盟の意向を記した書簡の草案を承認したことが明らかになった。2023年8月にヨハネスブルクで開催の BRICS サミットにおいて、BRICS の拡大についての宣言が採択された。BRICS は当初ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ共和国で構成されていたが、2024年1月からはエジプト、エチオピア、イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦が新たに加わった。現在、タイ、インドネシア、カザフスタン、ベネズエラ他が加盟申請を行っている。



https://sputniknews.jp/20240530/brics-18524068.html?rcmd_alg=collaboration2

①速報(2024年6月1日)

ウクライナはベルゴロド近郊で NATO のミサイルを使ってロシアへの攻撃を開始した。今のところロシア軍はそれを迎撃することに成功している。

<https://x.com/i/status/1796719388588122597>

オランダは米帝の許可なしにウクライナに供与した「F-16」でロシア領土を攻撃することを許可した。



<https://x.com/miya397156651/status/1796720196478181712?s=09>